

分科会研修のまとめ

A分科会 学校簿記入門

運営委員：齋藤 淳 志
中 塚 真由美
景 山 峰 司

A分科会では、学校簿記の経験が少ない27名の参加者を対象に、日常行う会計処理について、学校法人会計基準に基づく解説を加えながら、実務研修を実施しました。

教材は、資料A-1「学校簿記入門」、A-2「演習問題」、A-3「演習問題（解答）」を中心に、パワーポイント資料や各種計算書様式が掲載された副資料もあわせて使用しました。

進行としては、まず、学校簿記のイメージをつかんでいただくために、学校法人会計基準の概要を含め学校簿記の全体像を説明しました。参加者の中には、日常経理業務に携わっていない方も多かったため、借方（かりかた）、貸方（かしかた）といった仕訳のルールや、簿記の基礎から理解してもらえよう説明しました。

次に、最も身近な業務となる資金収支計算に係る収入科目、支出科目をひとつずつ説明し、実際に演習問題に取り組むことにより日常の会計処理に慣れ、理解を深めてもらいました。その後、「資金収支計算書」及び「活動区分資金収支計算書」を作成しました。

続いて、事業活動収支計算に当たっては、資金収支計算との違いや事業活動収支計算特有の仕訳について説明したうえで、演習を行いながら「事業活動収支計算書」と「貸借対照表」を作成し、これら計算書の特徴や見方について説明しました。

いずれにおいても、実務経験が少ない方にも分かりやすいように、丁寧な説明を心がけました。各校の経理の現場では、会計処理はシステム化されており、仕訳伝票の入力により同時に帳簿が作成されることがほとんどだと思いますが、A分科会では、元帳や試算表への転記の作業も解説し、その過程を理解する機会を提供しました。参加者の日常の担当業務や基礎的な習熟度にもよりますが、全体として、学校簿記の概要については、理解してもらえたのではないかと思います。

そして最後に、分科会の締めくくりとして、4名程度のグループに分かれて、この研修会の内容を振り返るディスカッションを行いました。各グループで活発に意見交換や情報共有が行われており、有意義な時間となったようでした。

なお、参加者同士の親睦を深めるため、分科会初日に自己紹介を行い、名刺交換を促したことによって、休憩時間においても名刺交換や情報交換が行われ、3日間をとおして積極的に交流されている様子が伺えました。知識の習得のみならず、参加者にとっては大きな成果になったのではないかと思います。